

NICE SMILE

2014
新春
VOL.56

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター●院外・院内広報

発行・責任者：広報誌編集委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



逆光の樹氷 北海道湯川町 Photo by 飯田正明氏

年頭挨拶



次世代に向けた新しい
地域医療連携を目指して

理事長 八木原 俊克

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

2013年の世相を表す漢字は「輪」でした。東京五輪開催決定と大震災と台風災害への支援の輪などが主な理由だそうで、揮毫(きごう)した僧のコメントとして「大勢の人が支え合うのが輪の精神」と報道されました。

昨年は、りんくう総合医療センターでは、大阪府立泉州救命救急センターと統合した記念すべき年であり、病院の中に2つのセンターの職員による大きな輪(和)が広がった印象深い年でした。

さて、今年は言うまでもなく診療報酬改定の年です。消費増税補填分を含めて若干のプラス改定、実質的にはマイナス改定と報道されており目が離せません。思い起こすと前回の改定から、原発事故問題の遷延、尖閣列島問題や歴史認識に関連する日中・日韓関係の悪化、そして政権交代、さらに急激な天候変動と台風災害、TPP交渉への参加等々、医療以外の大きな課題が連続した2年間だったと思います。そのせいか、前政権から引き継いで議論されてきた社会保障・税一体改革の中で、昨年8月に

発表された社会保障制度改革国民会議報告書の影がくすんでしまっている気がします。

確実に迫ってくる高齢化社会を迎えるにあたり、地域性に配慮を要する医療改革は、現場からの提案が有益な場合が少なくありません。泉州南部地域は人口密集地でも過疎地でもなく、交通至便なようでも大阪市内からは遠く、古い歴史と文化を抱えた街であつても海外には最も近い：：など、この特徴ある地域における将来の医療は、この地域から提案すべきではないでしょうか。

2025年まではまだ10年余りあります。

今年、りんくう総合医療センターでは、内科系医師の確保や良質の医療を提供できる診療体制強化に加え、研修棟を建設して地域医療に必要な人材育成を促進することも、さらなる医療連携を可能にする泉州南部診療情報ネットワークの構築等を計画しています。

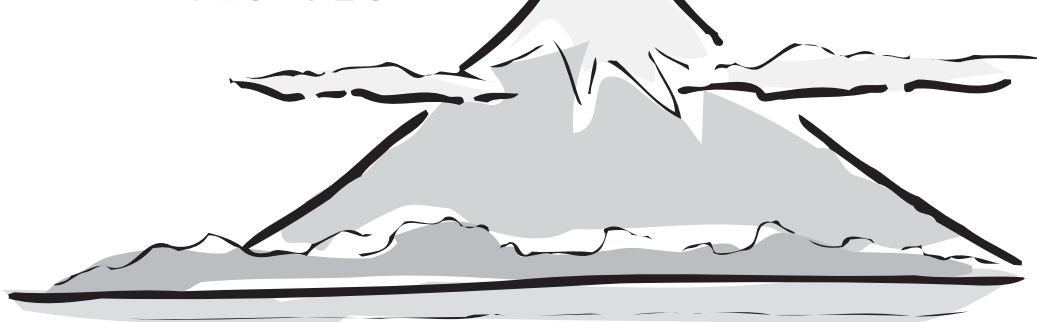
この地域に今まで以上の大きな連携の輪(和)が広がってゆくことを祈念し、本年も引き続き皆様方のご理解とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

CONTENTS

「年頭挨拶」 理事長 八木原 俊克	1	「病院基本理念」	12
「年頭挨拶」 病院長・副病院長	2	「第15回クリスマスコンサート」	
「年頭所感」 各部門長	3～11	「かわいいお便りが届きました」	
		「お知らせ」	
		「広報誌編集委員会メンバー紹介」	
		編集後記	



年頭挨拶 2014



年頭のご挨拶



病院長 伊豆蔵 正明

明けましておめでとございます。

りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターは、昨年4月に、約2年間の準備期間を経て統合致しました。新しい職員の教育に時間がかかり、充分な機能を発揮するまでに到っておりませんでした。軌道に乗ってきたのではないかと思っております。今後も、専門医療と救急医療が融合した質の高い医療を提供できるように、さらに努力して行く所存です。

さて、わが国の医療の大きな方針として、地域完結型医療をめざすことが打ち出されており、地域医療連携は現在の最重要課題であります。泉州南部ではその重要性は十分に認識されており、医療機関単独ではなく、面に対応する必要があります。そのためには地域全体で円滑な連携が出来るようなシステム作りも必要です。最近では、電子カルテの診療内容の閲覧が可能な診療

情報ネットワークシステム(なすびんネット)の試験運用を開始し、本年4月の本稼働に向けて準備を進めているところです。今後、多くの医療機関が参加して下さり、診療情報の共有をすることにより、患者様に有益となることを期待しております。また、昨年10月に南泉州地区病病連携協議会を立ち上げました。本会は病院間の連携を図るものですが、それに留まらず、さらに病診連携ならびに在宅医療や介護の分野の地域連携にも広げて行く必要があります。

その中で当院の地域医療支援病院としての責務は、益々大きくなつてくると思っております。

当院ではまだ人材が不足する診療部門もありますが、限られた資源を有効に利用し、今後とも地域医療の発展に貢献したいと思っております。皆様方の御指導、御協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

年頭所感



副病院長兼感染症センター長兼 院内感染対策室長兼輸血部部長 玉置 俊治

皆様、あけましておめでとうございます。

年の初めにあたりまして、本年も皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

さて、私は平成3年1月に旧市立泉佐野病院に内科部長として着任して23年になりました。その間、当地への移転、地方独立行政法人化そして昨年の大阪府救命救急センターとの統合を経験しました。専門診療や重症の患者さんの管理ができて、遠くの医療機関に送っていた平成3年当時と比較すれば、まだ十分とはいえませんが、かなり地域のニーズにこたえられるようになってまいりました。地域住民や医療機関の皆様のご支援のもと、この発展の一端を担うことができましたことを幸せに思っています。

内科に関しては、消化器呼吸器などの部門の拡充に、まだまだ努力が必要ですが、昨年4月より総合内科・感染症内科が新設され、大阪府泉州救命救急センターと各専門診療科との橋渡しを

すべく頑張っており、今後さらに拡充の予定です。

また、私の専門とする血液内科は専門性を必要とするため、他の医療機関での診療の困難な事が多く、最近高齢者が増え、治療薬の進歩により疾患によっては長期生存される方が増えてきたため患者さんがどんどん増えていきます。地域のニーズにこたえるべく大学などに支援をお願いしスタッフの確保に努めるとともに、私自身も、もうしばらく専門診療を続ける所存です。で、引き続きご支援をお願いいたします。





副病院長
地域連携サービスセンター長
心臓センター長

永井 義幸

2014を迎えて

昨年の12月に病院機能評価を受審いたしました。この準備に昨年の4月以降約9ヶ月もの長期にわたり準備いただき感謝いたします。より一層よい病院にするために外部の評価を求めて見直すいい機会になったと思います。今回の準備にあたり病院のいろんな部署をあらためてまわってみてこれからの病院を担う新しい人材が育ってきていることが実感でき非常にうれしく思いました。病院機能評価には何で普段の業務でいそがしいときこんなめんどうくさいことをしなければいけないのかとか、普段すでにきつちりやっているからもういいんだとかいろいろ考えてあったかもしれない。でもわたしはこう考えます。今回の受審をうけたことが大変だったが役にたつたとおもわれるかたこそ、この病院機能評価の本来の目的を理解され普段から病院全体の運営に尽力されているかただろうと。機能評価ではチーム医療が大きくクローズアップされています。医師・看護・薬剤・リハビリ・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技師・管理栄養士・MSW・診療補助員・事務局なども含めた病院全体の総力がもたらされる時代です。2014年は新しい力も加えて皆様がたといっしよに病院運営ひいては地域住民・患者さまに貢献してまいりたいと思います。



副病院長
大阪府泉州救命救急センター所長

松岡 哲也

年頭所感 地域医療の中核病院として 納得の医療を提供します

新年あけましておめでとうございます。旧年中、皆様から賜りましたご厚情とご尽力に対し、心からお礼申しあげます。さて、我が国の医療を取り巻く環境は、超高齢社会を迎え変革の時期にあります。地域完結型の医療体制や、多職種連携による地域包括ケア体制の構築の重要性が盛んに提唱されています。今年のNHKの大河ドラマは、豊臣秀吉に仕えた軍師黒田官兵衛を主人公として上映されています。官兵衛は本能寺の変の知らせを聞いて秀吉に「これぞ天下取りの好機」と進言し、有名な「中国大返し」を実行させたことで有名です。多くの軍師が、義を貫いたり、理想を追い求めたのに比べて、彼は非常に現実的な差配をふるったと言われますが、一方で大勢の家臣に慕われ、正直で真つすぐな人柄であったそうです。現在の医療環境も、戦国時代とは異なりますが、激動の中にあります。この世の中の動きに飲み込まれることなく、泉州南部地域の医療体制を確立するには、現実的な変革が必要です。ただし、その変革は人にやさしく地域に受け入れられるものでなくてはならないと思っております。

りんくう総合医療センターでは昨年、「高度専門医療と救急医療」の融合を目指し、大阪府立泉州救命救急センターの移管統合を行いました。これは、互いの診療機能が有機的に融合することにより、それぞれの機能を一層強化し、地域完結型医療の中核的機能を果たすことを目的としています。まだまだ不十分な点が多々あるうかと思えますが、地域の医療機関や住民の方々には満足して頂ける成果を達成すべく職員一同、一層精励していく所存です。

皆様方には、これまで以上に率直なご意見や徹しいご指導を賜りますよう、宜しくお願いいたします。



副病院長
看護局長

増田 紀子

年頭所感

新年明けましておめでとうございます。25年は泉州救命救急センターとの統合でりんくう総合医療センターは30床増え、388床となり、ますます救急医療が充実しました。

看護はそれに見合う体制の確立のため、人員確保に奔走し、救命ICUにかつて類を見ない18名の新採用者を配置しました。見える、見える、見える両方が疲労困憊してしまいました。5階海側病棟(救急中央管理部門)再編成においては、統合の機能が発揮できる病棟作りを念頭に行いました。が、苦慮した1年間でした。しかし、看護師は常に前向きにそれぞれの役割を認識し、「何が出来るかを考え努力してくれました。看護局も一体化しましたので、目標を「相手の良いところを認め合いながら看護の力を結集する」とし、伝える力・聞く力・考える力・そして形にする力の4つの力を出し合うことで、より強固な看護局を目指しました。

結果、組織づくりは、両方の良い所を取り入れ、教育は救命センターのラダーを基に、師長会や委員会、目標の4つの力を十分に発揮し形に出来ました。また、常に目標は患者さんに置き、パートナーシップ制(患者看護に2人で対応する)を試行し良い成果を期待しています。他職種には、役割分担の推進に協力して頂き、それぞれの部署において、看護の専門



事務局長

田中 寛

私の初夢

りんくう総合医療センターの事務局長の田中です。

昨年は、①2月に全国に先駆けて、「外国人患者受け入れ医療機関認証制度」を受審して認定を取得しました。②4月に、懸案の大阪府立泉州救命救急センターとの統合を果たしました。③11月には、第2回りんくう地域懇話会を開催し、④12月には、病院機能評価機構の審査を受けました。これらは、長くて、周到な準備期間と理事長のリーダーシップの下で、各診療科や病棟などの各セクションの意欲的な行動により、達成できたものと考えています。

ただし、上記の事業は、われわれ職員一人ひとりの不断の努力によって、維持されるべきものです。新年は、ESCO事業の完成、ID-1 INKの本格稼働、診療報酬の改定、消費税の引き上げ、研修棟のオープンなどの事業が目白押しです。これらも、いづれもほとんど、先進的な取り組みなので、真摯な対応が必要です。心を一つにして、当たらば解決するでしょう。よろしくお願ひします。他の懸案も、良い循環の中でうまく解決していく、そんな初夢を見てみたいと思っておりますが、叶えられたのでしょうか？

年頭所感

膠原病内科部長
リウマチセンター長
入交 重雄

新年明けましておめでとうございませう。旧年中は院内の各部門の方々、地域医療に関する方々に大変お世話になりました。今後も泉州地域の医療に貢献できるよう努力、精進する所存です。本年も宜しくお願い致します。

総合内科・感染症内科部長
倭 正也

皆様あけましておめでとうございませう。本年もよろしくお願い申し上げます。さて、昨年4月の当診療科の立ち上げ以来、皆様方の多大なるご協力、ご支援の下、多くの患者様に受診いただき順調に船出をさせて頂いていただきました。深く御礼申し上げます。泉州医療圏の総合診療、感染症診療ならびに内科救急疾患に対し、さらなる貢献をさせて頂いた、いただきたいと考えております。何卒、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお申し込み申し上げます。

血液内科部長
柿本 綱之

新年あけましておめでとうございませう。患者さんに対し常に最善の医療を提供すると同時に、医療経済さらには

地域医療を担うりんくう総合医療センター血液内科としての在り方も踏まえ、いずれにも、最善、を提供するためにベストを尽くす、という壮大な目標を持ち日々邁進しております。忙しく仕事に追われようとも、心にはゆとりを持ち、自分に厳しく人には優しく、精進して参ります。今年も何卒宜しくお申し込み申し上げます。

肺腫瘍内科部長
森山 あづさ

新春のお慶びを申し上げます。年末年始も関係なく、地域から多くの肺癌患者さんの御紹介をいただいております。

患者さんも高齢の方が増えるにつれ、糖尿や心血管系の合併症をもつ患者さんも多く、診断・治療に苦慮することも多くなりました。肺癌は医療側にとっても患者さん側にとっても、まだまだ治療の難しい疾患です。厳しい説明にも患者さんが信頼して治療を受けて下さるの、病院全体への信頼と地域の先生方の御協力の賜物と痛感し、感謝しております。

今後とも大阪府のがん拠点病院の一端を担えるように努力して参ります。本年もよろしくお申し込み申し上げます。



神経内科部長
宗田 高穂

医療崩壊が叫ばれるようになって久しくなりましたが、改善の見通しはいまだに立っていない状況です。この南泉州地域も例外ではなく、特に内科系医師の不足は数年来からの懸念事項となっております。

神経内科におきましても、りんくう総合医療センターで1名の人員での診療を余儀なくされています。少ない人員であっても診療の質を落とすことなく、良質な医療を提供できるよう努力してまいります。微力ながら南泉州の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお申し込み申し上げます。

明けて、おめでとうございませう。旧年中は、救命センター、りんくうの当直の先生方の御協力のおかげで、緊急カテーテル治療数が増加しました。本年も宜しく御申し込み申し上げます。

循環器内科部長
武田 吉弘

明けて、おめでとうございませう。旧年中は、救命センター、りんくうの当直の先生方の御協力のおかげで、緊急カテーテル治療数が増加しました。本年も宜しく御申し込み申し上げます。

がん治療センター長
外科主任部長
位藤 俊一

新年あけましておめでとうございませう。旧年中は各科先生方、薬剤師、看護師、検査技師、地域連携室、診療情報管理室、相談支援センターやメディカルクラークをはじめ様々な部門の皆様にご協力いただき、チーム医療を実践することができました。この場をお借りし心より感謝いたします。チーム一人ひとりが少しずつでも前進することで大きな成果へと結実します。きびしい中にも楽しさを共有できる、プロフェッショナルなチームを目指し、柔軟かつ大胆な発想を展開したいものです。チーム一丸となって医学の進歩や社会に貢献できるよう日々邁進していく所存です。

消化器センター長
外科部長
水野 均

家庭のテレビでは2011年の地上波デジタル放送移行以来、ハイビジョンが常識になってきましたが、腹腔鏡手術の画像はそれ以前からハイビジョン化されていました。ハイビジョン画像に変わって、以前にはよく見えなかった細かい血管や薄い膜の境界線などがはつきりと認識できるようになり、それまでより精密な手術操作が可能になりました。当院では今年、2007年に導入した最初のハイビジョンモニタ

ターを、最新式のものに更新する予定にしており、さらに鮮明な画像を見ながら、よりいっそう緻密で繊細な手術ができるように、そして多くの患者さんによりよい医療を提供できるように、我々外科医も、日々研鑽していきたいと思っています。



救急診療部長兼脳神経センター長
脳神経外科部長
森内 秀祐

謹賀新年。年頭挨拶申し上げます。脳神経センターは、脳神経外科、神経内科の医師5人（脳神経外科医4人、神経内科医1人）が中心に、診療にあたり、救命センター医師との連携により、充実した診療を提供しております。現在、脳卒中・重症頭部外傷救急の受け入れ窓口は救命センターに一元化し、迅速で適切な救急対応をしております。また、脳脊髄腫瘍の最新の手術、集学的治療や脳動脈瘤の血管内治療、正常圧水頭症治療、パーキンソン病の外科的治療など、最先端の専門性の高い治療を提供しています。当科のモットーは、患者様の身になって考え、この病院にきて良かったと思っただけのような治療の提供です。



心臓血管外科部長
松江 一

新年、あけましておめでとうございませう。当地に赴任させて頂き、早4年が経過致しました。無事診療を継続出来ておりますのも地域の先生方、及びご関係各位のご支援のおかげと感謝しております。本年も引き続き、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

循環器診療のトピックとしましては大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療が保険適応となりました。大動脈疾患に対するカテーテル治療は既に広く普及しており、当院でも多くの患者様に治療を受けて頂いております。今後ますます低侵襲治療に対する要求は高まってくると思われまふ。当科でも新しく心雑音・弁膜症専門外来を開設致しましたので、大動脈専門外来と共にお気軽にご相談頂ければ幸甚です。循環器内科、救命救急センターと共に地域の循環器急性期診療の核として地域に貢献できるよう、また、患者様、地域の先生方（病診・病病連携）、当施設との連携をより深め、患者様にとって真に質の高い医療を提供できるよう努力する所存です。



形成外科部長
服部 亮

昨年7月より赴任してまいりましたが人生初のホールインワンを達成したのも束の間、あつという間に半年が過ぎ新年を迎えることとなりました。ま

だ慣れない間、多くの先生方や、看護師、薬剤師、事務職員をはじめとしたコメディカルの方に支えていただきました。誠に御世話になりました。

形成外科という美容的側面の印象が強いかと思ひます。昨年からは乳房インプラントが保険適応となったことは、長年の患者サイドからの訴えもあり、多少なりとも標準医療の一部として整容的側面が認められるようになってきたということの現れかと思ひます。

近年多方面で進んでいるガイドラインに沿った標準的な治療を提供することも重要ですが、その上でそれぞれの患者さんのニーズに合わせた、少しでも綺麗な、少しでも目立たない、少しでも芸術的な、こだわりの持った治療を提供できるよう日々の診療に取り組みで行く所存です。今年もよろしくお願ひいたします。



呼吸器センター長
呼吸器外科部長
桂 浩

皆様、明けましておめでとうございませう。

昨年、当科で特筆すべきことは、新メンバーの加入、マンパワーの増加があります。結果、救急科も含めた各科との迅速な、連携強化でしょうか。また、手術面で、早い段階の肺癌では、より術後QOL向上をはかるべく、これまで以上の鏡視下低侵襲手術を導入、移行することができました。当院の呼吸器医療には、いまだ種々の制約があります。が、より安全、確実な医療提供のため、関



周産期センター新生児医療センター長
小児科部長
住田 裕

少産少子化の真只中、りんくうで出産してよかつたなあと、思っただけけるよう周産期医療の下地作りは整ってきています。しかし、その後の子供たちの保健、医療に携わっていただける泉州地域の小児科医数は減少傾向です。りんくう総合医療センター小児科も然りです。小児科の若い研修医には、大学病院等でのより高度な研修をさせたいです。成長した暁には、泉州地域の周産期、小児科医療に励んでいただけることを切に願ひしています。



泉州広域母子医療センター産科医療センター長
産婦人科部長
荻田 和秀

2008年4月から運用が開始された泉州広域母子医療センターも、皆様のおかげをもちましてオープンから5年経ちました。産科医療センター、新生児医療センター共に大過なく運営する事ができています。また、救命センターの統合により、従来にもまして産婦人科救急にも力を注ぎ、一次救急から三次救急まで約1700件の産婦人科救急患者を受け入れる事が出来ました。また、高度な医療サービスの提供のみならず正常分娩の妊婦さんにもりら



年頭所感

ツクスして頂けるよう、祝い膳や分娩後のアイスクリーム、妊婦ヨガなども行っています。

お産は合併症なくお母さんも赤ちゃんも退院する事が出来てはじめて「正常分娩」と言えます。「ハイリスク」と最初からわかっているお産はむしろ少ないのです。地域の皆様がいざというときでも安心していただけるような安全性と快適性を尽くした周産期施設として更に研鑽を続けるつもりです。



泌尿器科部長

萩野 恵三

地域の皆様、あけましておめでとうございます。りんくう総合医療センター泌尿器科萩野恵三(はぎのけいぞう)です。2013年も地域住民の皆様の絶大なるご支持と、地域でご活躍されている実地医家の先生方のご支援のおかげで、当院の泌尿器科診療は年間1133名の新患と555名の入院患者に対して369件の手術を実施いたしました。2014年も、少しでも泉州地域の医療に貢献できるように努力していく所存です。今まで同様にあなたかく見守っていただければ幸いです。



眼科部長

村井 克行

あけましておめでとうございます。昨今、泉州地域では眼科常勤医の減少がみられますが、当院では他に比べ3名と多くいます。また最近の診療でスタンダードになっているOCT機器を導入予定です。設備面の充足に加え、当科は眼科の初めの窓口として、より地域連携を密に、頑張っていこうと思えます。今年もよろしくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科部長

碓田 猛真

あけましておめでとうございます。当科は、この地域の耳鼻咽喉科診療の中核たるべく努力しているところでございます。皆様のご支援のおかげをもちまして、直近1年(平成24年10月〜9月)で、鼓室形成術50側、人工内耳14側、内視鏡下副鼻腔手術103側、悪性疾患の治療50件以上と府内でも有数の実績を上げることができております。引き続き良い医療を提供すべく努力してゆく所存でございますので、本年もよろしくお願い申し上げます。



歯科口腔外科部長

大前 政利

今年(甲午(きのえうま)、干支では1番目の子から始まり7番目の午です。方角でいうと北の子から180度回った南が午、時刻でいうと0時辺りの子の刻から半日過ぎた昼の12時頃が午の刻、そういって午線、正午の午です。折り返し点とか転機といわれる節目になっています。

この1、2年で病院体制は大きく変わりましたが、今年(甲午)はそれを吉となす年。その兆候はすでにあらわれていまして、病院一丸となつて、さらに良い方向に舵を切つてまいりましょう。



放射線科部長

櫻井 康介

何かと慌ただしいまま、月日が過ぎていきます。今年(甲午)は「なすびネット」の正式稼働の予定になっています。余りたいたことができておりませんが、何とか有意義なツールに育つて欲しいものと願っております。さしあたり放射線科では病診連携の第3の画像提供ツールとして運用を始める予定です。この数年、綱渡り状態の毎日ですが、何とか今年も乗り切りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



中央手術室長兼麻酔科部長

小林 俊司

あけましておめでとうございます。昨年は救急救命センターと合併し、手術室にも影響のあることが予想されましたが、幸い大きな混乱もなく乗り切ることができました。

昨年度は当院手術室において、約3500件の手術(麻酔科管理約2600件)が行われました。

近年、手術の需要は増加傾向にあり、更に多くの手術を、安全かつ質高く行う必要に迫られています。今年もスタッフ一同頑張っていきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。



リハビリテーションセンター長
リハビリテーション科部長

榎谷 昭一

ジョギングを始めて、26年。きっかけは学生時代に65kgであった体重が80kgに増え、これでは整形外科医として患者さんに減量しなさいと強く言えないと一念発起し早朝5km毎日走り出し、3ヶ月後には65kgになり、1年後煙草をやめて3kg増えて現在70kg弱を維持しています。今は週に2から3日腹筋50回後に5kmのジョギングと週に1から2回のテニスを続けて、健康診断ではほぼ正常値を維持しています。患者さんに強く指導できる体型のリハビリテーション医でありたいと思っています。



国際診療科部長
南谷 かおり

昨年は日本で初めて「外国人患者受け入れ医療機関認証制度」で認証された3病院の一つとなりました。平成18年の国際外来開設時から外国人が来院した時に患者も医療従事者も困らないようにと医療通訳を育て、4言語の翻訳書類を揃えてきました。それが評価され、全国でも珍しい外国人に対応可能な病院として認められたのです。今年も素晴らしいスタッフたちと共に更なる経験を積んで、全ての患者さんに優しい病院を目指したいと思います。

看護管理室副看護局長
藤野 正子

新年明けましておめでとございます。昨年は委託を含む職員みんなの努力と協力から、無事に病院機能評価の受審を終えることが出来ました。ありがとうございます。講評では多職種間の協働や他部署との連携強化を指摘され、チーム力を発揮できていないことを実感すると同時に、力を合わせればもっと伸びる病院なのだと思いがわいております。今年には医療チームが一つになって力を発揮し、シナジーが生まれるように、微力ながら努力したと考えます。

看護管理室副看護局長
地域医療サービスセンター副センター長

甲斐 美智子

新年あけましておめでとございます。昨年4月、大阪府泉州救命センターと統合し、新しい「りんくう総合医療センター」として運営を開始しました。

①稼働率の年間目標達成
②救急患者の受け入れをスムーズにするため病床確保
③スムーズな入院のための退院支援・調整

この3点を目標に頑張りたいと思いますので今年も、ご協力よろしくおねがいします。



看護管理室副看護局長兼教育責任者
鈴木 千晶

平成25年を表す漢字が「輪」でした。昨年看護のポスターを作成した際、「看護でつなごう 生命(いのち)の輪」というキャッチフレーズの、偶然「輪」が同じだと嬉しく思いました。小児の脳死での臓器移植が12月に5例目が行われたと新聞で報道されており、それもまさにいのちの輪です。昔心臓移植の勉強の為に米・豪で学びに行った頃は、日本に戻ってきてまだ成人ですら脳死での移植は行われていなかった現実

がありましたが、今では小児での脳死・移植も行われるようになり、本当に医療は進歩しているのだと感じます。その医療の進歩の中、救命センターとの統合がありました。輪ができたばかりで、これから少しづつ太く強いりんくうの「輪」を作っていけるよう努力していきたいと思えます。



看護管理室兼急性期ケア推進室
藤原 由子

あけましておめでとございます。私は、りんくう総合医療センターの救急外来を主に担当しています。

4月から救命センターと統合後、私の周囲でもさまざまな検討、取組みがなされ慌ただしく時間が経過しています。そのような中でも、今年は一つつつ丁寧に見直しを行い、よりよい看護サービスが提供できるよう、チーム力を強化していきたいと思えます。今年もよろしくお願ひいたします。



中央手術室看護部長
藤原 妙子

昨年は4月の手術件数の落ち込みから始まり何とか目標値に近づけるためスタッフとともに努力をした1年でした。手術室の忙しさは病院の医業収益に比例することから私たちの役割は非常に重要なものと認識しています。今後もっと多くの手術の受け入れのため、まず手術室看護師の労働環境を少しで

も改善していくことが私に課せられた課題と考えます。また今年度も常に安全な手術環境を患者様に提供するため、院内の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。



放射線科看護師長
渡邊 久代

昨年は機能評価があり、日頃のシステム、マニュアルを見直す良い機会になりました。

評価・講評を聞いて素晴らしい組織であると痛感し全員の力をあわせることで目標達成できその力の大きさを感じました。同時にその組織の一員であることができとても大きな喜びを感じました。

「大阪ではなく日本一を目指してください」という言葉も印象的でさらに良い組織になると確信しました。審査の日は特別な日に思えて緊張したのですが、毎日が「特別な日」と意識して目標達成するための活動をすることでおのずとモチベーションは高くなり成果は出るのだと思えます。

どのような時も相手を気遣うこと、感謝すること、プラスの感性をみることが、これらはたやすいことではなく常に意識して努力することが大切です。日々の検査、治療はもちろんですが緊急性の高い症例も速やかに受け入れ安全に治療看護ができることを目標にチームで活動しています。りんくうの良い仲間を信頼して今年も放科一同頑張ります。

年頭所感

外来看護部長

松井 美智子

あけましておめでとうございます。昨年4月より外来に異動になりました。あつという間に新年を迎えました。わからないことばかりで気づかないまま皆様にご迷惑をおかけしたことと思います。昨年は皆様を支えられて過ごした1年でした。外来は1日800人前後の患者さんが受診され、限られた時間の中でたくさんの方の患者さんの診察・検査などが実施されています。DPCや平均在院日数の短縮・地域連携が進む中でこれまで入院で行われていた治療や指導が外来で行われるようになり、日常生活援助の相談や指導・教育が必要になってきています。また生活習慣病への意識づけ、診察・処置介助など看護師の役割は多様化してきています。患者さんに必要な援助に気づき介入していただけるように、日々努力していきたいと思えます。本年もよろしくお願ひいたします。



ICU/CCU病棟看護部長

川島 孝太

昨年は患者さまへの看護の質向上はもとより、スタッフの職務満足度向上にも努めた一年であり、働く者のライフスタイルに合わせた勤務体制への変更や、業務整理に取り組みました。その結果、幾つかの「イノベーション」に至りましたが、私自身もつとマネジメントの勉強をしなければという反省もあり、長らく尻込みしていた大学進学を決心しました。前厄となる2014年も今からバタバタの予感ですが、自分に納得のいく人生を送るため、そしてよりよい看護の職場を作るため、今年も頑張つていきたいと思えます。本年も何卒よろしくお願ひいたします。



今年も5S(知る・承認・信頼・真剣・真意)で致恩結5階海側病棟間

濱 裕代

25年度、救命センターとの統合で病院自体も大きく変わり、5海はそれに伴い救命センターのバック病床としてまた中央管理病床として18床が動き出しました。新しいスタッフ、救命センターの先生方、病床管理副局長、各病棟の師長、MSWと連携を取りながら、緊急入院・転棟・転院と目まぐるしいベッド調整を日々行い、何とか軌道に乗ってきたように思います。昨年度よりいつそうのステップアップが図れるよう目標に向かって一致団結し、患者様とご家族の満足と安心と笑顔を得られるように今年も頑張りたいと思えます。

知る：患者様・家族・同僚のことを知り、自分のことも知ってもらいます。

承認：相手の存在を気づいて認め、認めたことを伝えることに努めます。

信頼：お互いのことを信じて頼り、認められ受け入れられる関係を作ります。

真剣：何事にも本気で取り組みます。真摯：「一貫した正直さ」「一貫した誠実さ」を持つて看護に取り組みます。



6階海側病棟看護部長

松本 由美

新年明けましておめでとうございます。昨年、一年間「どうであったのだろうか」と振り返ってみると、泌尿器科の手術件数が増えたり、形成外科の病床が4床から6床へと増えたり、12月には、総合内科が3床、6海病棟に加わりました。小児科病床も成人で使用することもあり、病床確保するのに頭を悩ませました。

そんな時でも、先生方をはじめスタッフ、そして他職種の方々の協力のもと、支え・支えられ協働意識を持つて乗りきられたと思います。

今年も、スタッフの健康を考え、働きやすい・楽しいポジティブ精神で頑張つていきたいと思えますので、今年も、ご指導のほどよろしくお願ひします。



NICU/GCCU看護部長

西出 あや子

私が看護師長として常日頃から心がけているのは、ナイチンゲールの看護覚書にある『小管理』です。自分がその場にいようとまいいと、物事がいつも整然と運ばれるように、手筈を整えておきさえすれば、患者はもう全く心配する必要がなくなるのである。

泉州広域母子医療センターとして広域から母子を受け入れており、NICUという場所を必要とする赤ちゃんに常時対応できる体制を整えておくことが重要です。

NICU看護師として高い志を持ったスタッフが、いかなる状況においてもマンパワーを発揮できるよう、赤ちゃん・家族が求める環境提供を中心に今年も体制整備を継続していきたいと思えます。





6階山側病棟看護師長
福島 ひとみ

あけましておめでとうございませう。本年も引き続き、泉州広域母子医療センターとしての機能を果たすべく、他部門との連携は勿論のこと、地域の妊産褥婦の方々に頼られるよう、安心・安全の分娩管理ができるように頑張っております。

この泉州地域の出生率は年々減少傾向ですが、リスクのある方々は減少することなく、むしろ増加傾向ではないでしょうか。この人たちを広域として、産婦人科部門も各施設とのネットワークシステムを組み、データや紹介状を書くことなく、一秒でも早く必要な施設への搬送ができるように今構築準備中です。

入院アメニティの充実も考え、周産期センターとしての機能とローリスクの方々の分娩施設機能をとりそろえた施設として、妊娠・分娩・産褥と継続した看護ができるようにスタッフ一同心がけていきたいと思っております。



7階海側病棟看護師長
南 昌子

救命救急センターと統合し、半年以上が過ぎました。4月の時点ではどうなるのか不安もありましたが、大きな問題もなく時間が過ぎていくように思います。7海も耳鼻科と整形外科の病棟になり、整形外科の術後の管理など今までしていなかったこともたくさん

あり、とまどいながらでしたが、先生方や様々なコメディカルの方に支えられながらまた、スタッフもよくがんばってくれたと思います。今年度も質の高い看護が提供できるようにさらに努力していきたいと思っております。



7階山側病棟看護師長
奥 出恵子

救命救急センターとの統合、病院の質を評価される病院機能評価受審など昨年も様々な病院全体の動きがありました。

当病棟も良い環境でより良い看護ができるように大きく看護体制を変更し、また業務改善に取り組みました。

毎日毎日が慌ただしく、気がつく10月、あつという間に12月となり1年が過ぎてしまったという感じです。

しかしその1日1日は充実してました。歳を取ると1年が早く過ぎるといわれますが、1日1日が充実していても早く過ぎます。

反省の日や辛い日、苦しい日もありましたが、患者様やチームの笑顔があり、「喜び」があったからです。

澄んだ瞳を持って、35名のサラブレッド！？達と共に「自分なりの力でできること」で患者様を中心にした看護と病院のために1年間、午年だけに爽快に駆け抜けて行きたいと考えております。



8階海側病棟看護師長
射手矢 奈津子

昨年4月から8階海側病棟看護師長の任につかせて頂きました。右も左も分からず、周りの方々に助けられ、現在に至ります。「看護管理とは何か」と、無理を言って研修にも行かせて頂きこれから学んだことを現場で具体的に実践していきたいと考えています。昨年1年は大変忙しい中で、看護師長として、スタッフに協力や知恵をもらい乗り越えてきました。今年はスタッフや患者様が笑顔でこの病棟に入院して良かったと思える病棟作りをしていきたいと考えています。スタッフ、患者様が満足できるように頑張りたいと思っております。



8階山側病棟看護師長
高 島 麻由美

1年のスピードが年毎に早くなっていきます。それは当たり前で、例えば6歳の子供の1年は6分の1。私はというとなんかの1かしたら、年女を迎えたので、それはそれは長くなっていくはずで。

8階山側病棟のある日の平均年齢74歳。90分の1の方もいらっしやる。その方々の注射や血糖測定、あるいは透析療法の指導ってけっこう大変ですが、1日1日大切に少しでも早く退院出来るようチームで力を合わせ頑張っていきます。



薬剤科部長
森 朝紀文

薬剤科は本年も新しい業務を展開します。現在ほとんど関与できていない外来患者さまやICUを含めた救急部門で、薬の専門家として薬剤師が活躍する予定です。病棟常駐を開始して1年余り過ぎましたが、今後もチーム医療に参画し、患者さまに安全で有益である最適な薬物療法を提供できるように更に努力します。また、医療費削減のため後発医薬品の使用を積極的に推進するとともに、薬剤管理指導件数を増加させ病院経営に貢献します。



放射線技術科技術科長
小 西 康彦

新春のお慶びを申し上げます。放射線技術科では、昨年同様に必要な画像診断検査を必要なタイミングで実施できる体制を心掛けてまいります。昨年3月に更新していただいた3テスラの最新MRI装置は順調に稼働しており、土日の緊急検査にも対応できる放射線技師の体制がとれました。本年は、地域医療情報ネットワークが本格稼働となりますので、院内・院外から様々な要望がでてくると思われませんが、共に成長できれば幸いです。

年頭所感



中央検査科科長

三ノ浦 保彦

中央検査科は、化学・免疫・血液・一般検査等の検体検査部門と輸血検査部門、細菌検査部門、病理検査部門、生理機能検査部門で構成されています。そこに昨年4月、泉州救命救急センターの移管統合により三次救急検査が加わり、検査件数が著しく増加しています。この分野でも検査の効率化を推し進めてきました。緊急検査や輸血検査への対応、老朽化した多数の検査機器の維持管理で疲弊しつつあります。

本年も引き続き検査の迅速化・効率化を進め、各技師の検査技術の向上をはかり、精度の高い良質な検査結果を安定的に提供し診療支援していきたいと思っております。最新の検査機器導入による改善策も検討しなければならぬと考えています。



臨床工学科技術科長

河野 栄治

新年明けましておめでとうございます。臨床工学科は昨年4月より臨床工学室から科となりました。隣接する大阪泉州救命センターの臨床工学技士2名を加え、計12名体制で新年を迎えました。

昨年は、泉州救命センター統合や病院機能評価受審もあり科としての基本業務を見直す事は、4月から新しく科

を預かる私には良い機会となりました。今年も、臨床・機器管理業務の充実と並行し新しい業務に取り組みで行きたいと思っております。

若手スタッフも充実した科ですので意欲、機動力もあり、それらを活かして行ければと思います。



リハビリテーション科技術科長

藤野 文崇

新年、明けましておめでとうございます。昨年、救命センターとの合併があり、リハビリテーション科にとっても大きな変化があった一年でした。

今年是我々セラピストの専門性をさらに磨き様々な症状の患者さんに対し、より良いリハビリテーションを提供できるような努力していきたいと考えております。

今年も、リハビリテーション科一同力を合わせて頑張っていけますので宜しくお願い申し上げます。



経営管理監

本井 治

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。さて、昨年も何かとあわただしく過ぎ、いろいろと考えさせられる一年で

た。「外国人患者受け入れ医療機関認証制度」の受審、認定から、大阪府立泉州救命救急センターとの統合、そして「病院機能評価」の受審、あと認定を待つところ。一方、経営状況も気になりながら、全職員の取り組みで少しずつよくなっていく様子を確認しながら、かですが黒字になりました。今年も忙しい一年になると思いますが、皆様のよきご指導をよろしく願ひします。



総務課長

高橋 和也

みなさん明けましておめでとうございます。本年は、当センターが地方独立行政法人化して4年目を迎えます。

総務課は、昨年4月に経営管理課と統合し、職員採用、給与、経理、中期計画、年度計画の推進、情報管理等と幅広い範囲の業務を担当しております。

昨年度は、わずかな金額とはいえ、黒字決算となりました。しかしながら、本年度もまだまだ厳しい経営状況は続いており、職員のみなさんにはご苦労をおかけしますが、収入確保、経費節減にご協力いただきながら経営の安定化に向け励んでいきたいと思ひます。

現在、E.S.C.O事業を進めており、4月には地域冷暖房システムを廃止し、独自の省エネルギー技術を導入することにより、光熱水費の削減に努めます。また、病院職員の医療技術の向上を

図るため立体駐車場の一部に研修棟の建設が始まります。今年も病院にとって皆様にとっても素晴らしい年になることを祈念いたします。



医療マネジメント課長

廣道 敦

当課は、診療費の計算・請求を行い、診察の補助や受付、また、地域の医療機関からの紹介窓口となる直接患者様と関わる事務部門です。会計分散方式で待ち時間を軽減したり、患者様の案内役としてのフロアマネジャーを配置する等、患者様へのサービス向上に努めております。今年も、プライバシーに配慮した入院手続きスペースもリニューアルの予定です。本年も当課員は患者様一人一人に配慮したサービスの提供を心掛けてまいります。



総務課参事

北川 和義

新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。りんくう総合医療センターは、平成23年4月に独法化して今年で3回目の新年を迎えました。

厳しい経営状況の中、独立法人化という形で再出発したわけですが、この船出は順風満帆とは言えませんで

た。医師不足問題、政治的に左右される医療制度の変更、院内結核騒動、救命センター移管統合など医療を取り巻く荒波を、法人化することによって可能となる機動性、弾力性を最大限に活かした病院運営を行うことで、乗り越えてきました。

今後、もつと大きな困難が待ち構えているかも知れませんが、この病院は、急性期医療を中心に泉州地域住民の皆さまのより多くの命と健康を守るという使命を果たすとともに、その役割を人的、物的、また財政的にも安定的に担っていただける医療提供体制を構築していかなければならないと思っています。今年も微力ながら引き続き頑張つて参りますので、どうぞよろしくお願ひします。



看護管理室次長兼急性期ケア推進室室長
北村 愛子

健康という幸せと1%の変化のために

新年を迎え抱負を考えるにあたり、人生の大半を仕事に費やしている自分が、幸せだと感じる瞬間を考えてみました。気づいたことは、自分が元気でいることと、周辺の人々が笑顔でいること、そして、仕事を通じて多くのことがわかり、社会生活ができることが大切だと思ひました。その中でチームが信頼感を抛り所に、一人では成し遂げることができないことも皆で成し遂げることができ、且つ、皆ができないことも自分が努力してできるといった関係性

をもとに看護できることが、貴重だと感じます。笑顔を大切にしながら患者・家族の健康という幸せを目標にできる仕事に価値を感じています。その価値ある仕事に、さらに1%の変化を引き起こし、前進したいと思ひます。患者さまとご家族の笑顔が戻る瞬間、チームがより価値あると思ひえる瞬間にむけて、1%の変化を努力したいと感じています。

初療・手術室

深川 敬子

新年あけましておめでとございませう。みなさんは初詣に行かれたでしょうか。私は、混雑が過ぎた頃に行くことが多いのですが、お願ひ事は毎年同じです。みんなが健康でありますように。みんなが笑顔でお仕事できますように。世界が平和でありますように。でも、今年は一とお願ひ事を増やしました。初療・手術室の看護師数が増えますように。どうか願ひが届きますように！今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



救命ICU看護師長
井出 由起子

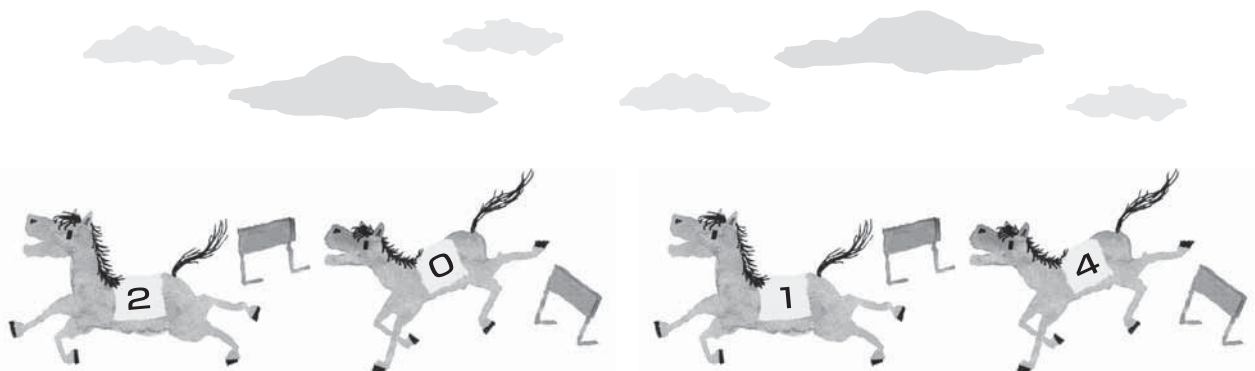
昨年4月に20名の新入職者を迎え、教える側、教えられる側共に努力する

日々でした。お陰で今は救命ICUを支えるスタッフに成長することができました。今年はいんなの夢である18床フルオープンを目指して、スタッフ一丸となり、変化に対応しながらひとつひとつに丁寧に取り組んでいきたいと思ひます。貴重な経験をさせていただいていることに感謝します。今年度も救命ICUをよろしくお願ひ致します。



5階山側病棟棟長
萩原文子

あけましておめでとございませう。昨年救命センターとりんくう総合医療センターが協働し、新しい第一歩を踏み出した貴重な一年でした。振り返ってみると、2年目を迎えた私たちにとつても、病棟の基礎づくりとなる一年でした。病棟として、ようやく基礎部分が形になりつつあることを実感することができました。本当に、いつも無理難題を笑顔でかわしてくれる他職種のみなさんの協力があるからだ、とても感謝しております。今年、病棟3年目となりますが、高度脳損傷・脳卒中センターとしての役割を昨年以上に果たせるような病棟運営をおこない、そして、いつも頼もしいスタッフとともに、それぞれの個性が「キラリ☆と光る」そんな病棟づくりをがんばっていききたいと思ひます。





基本理念



納得と安心感を与える医療を実践します。

良質で適切な医療を提供します。

医療活動を通じて社会に貢献します。

「第15回クリスマスコンサート」

2013年12月14日(土)14:00~15:00開催

ICUの看護師長をしております川島と申します。
昨年に引き続き、今年もりんくうクリスマスコンサートにフルートアンサンブルで出演させていただきました。

フルートは20年ほど前から趣味で吹き始めたものなので、プロの方々に交じって演奏するのは非常に緊張しましたが、私たちの演奏を聴きながらリズムをとってくれていたり、目を閉じて穏やかな顔で聴いてくれていたりする患者さまの姿を見てこの場で吹かせていただいて良かったという実感を得ることができました。

音楽はヒトの人生を彩り、その出来事を印象的にするチカラをもっていると感じています。

時には思い出を飾るBGMとして、時には誰かへのメッセージとして、そして時には自分を奮い立たせる応援歌として、私たちの人生を盛り上げるための大切な要素であると思っています。

病氣と向かい合っている皆さんが、少しの間だけでもそのことを忘れ、癒しの時間を過ごすことができているならば嬉しく思います。聴きにきていただいた皆様、オーガナイザーの久保様、関係各位の皆様、ありがとうございました。

川島 孝太

フィドルと
ハープ



フルート
アンサンブル



- ♪ Kumi(今尾公美)ーハープー
- ♪ 笠村温子ーフィドルー
- ♪ 久保由佳子ーヴァイオリン・企画・司会進行ー
- フルートアンサンブル[ソノレ]
- ♪ 川島孝太
- ♪ 牧野昌弘
- ♪ 大谷光弘



かわいいお便りが届きました

11月21日、勤労感謝の日を前に、天使幼稚園のみなさんが花束と心のこもったメッセージを届けてくださいました。ありがとうございました。



お知らせ

編集委員会では表紙の写真を募集しています。職員だけでなく市民の皆様から広く募集しますので、どしどし応募してください。

応募先

りんくう総合医療センター 広報誌編集委員会事務局
住所:〒598-8577 泉佐野市りんくう往来北2番地の23
TEL:072-469-3111 FAX:072-469-7929
E-mail:webmaster@rgmc.izumisano.osaka.jp

編集後記

「ナイススマイル」は今年から新しい編集委員で、年4回発行する予定です。今回は新春号として各部門長による年頭所感を掲載しました。今後は、南泉州地域の病院、診療所、歯科医院、薬局を含めた医療機関と、患者様や多くの市民が色々な情報を共有できる楽しい紙面を作っていきたいと思えます。皆様にオープンな季刊誌としたいと思いますので、「こんな事も載せてほしい」等アイデアご意見ご要望をお待ちしています。

編集委員長 森朝紀文

広報誌編集委員会メンバー

委員長	薬剤科部長	森 朝 紀 文
委 員	副看護局長兼地域サービスセンター副センター長	甲 斐 美智子
	NICU/GCU病棟看護師長	西 出 あや子
	救命ICU看護師長	井 出 由起子
	薬剤科主査	中 川 直 樹
	検査科主査	米 本 隆 浩
	放射線科	山 本 有佳理
	放射線科	早 川 治 男
	リハビリテーション科技術科長	藤 野 文 崇
	医療マネジメント課地域医療連携室長兼医事係主査	中 西 賢
	事務局	総務課

人権標語 「人権はみんなが持つものを守るもの」



りんくう
総合医療センター
MOBILE SITE